

各関係機関団体の長 殿
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所筑後支所長

平成25年度病虫害発生予察速報第1号について

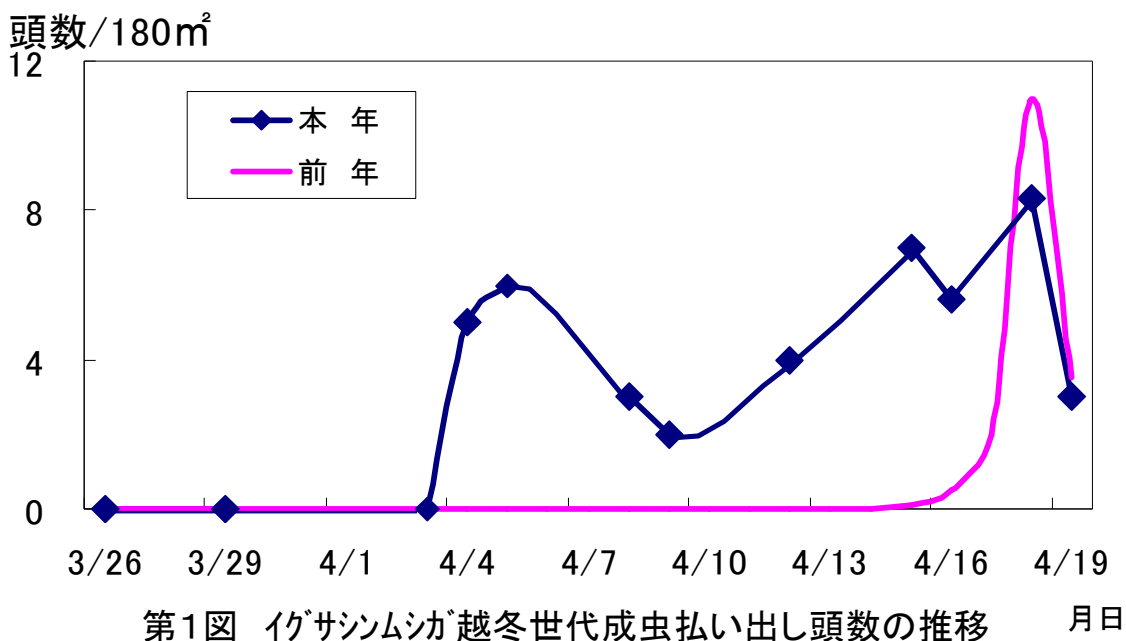
このことについて、病虫害発生予察速報第1号（イグサ・イグサシンムシガ）を発表したので送付します。

速報第1号

イグサ

- 1 対象作物：イグサ
- 2 病虫害名：イグサシンムシガ
- 3 発生地域：県南地域
- 4 発生時期：平年・前年並み
発蛾最盛期：越冬世代成虫の発蛾最盛期は4月18日
第一世代成虫の発蛾最盛期は6月9日（予測日）
- 5 発生量：平年並み・前年より少
- 6 速報の根拠
 - (1) 4月4日に大川市で越冬世代成虫の初発生が認められ、大川市木佐木のほ場での払い出し調査の結果、越冬世代成虫の発蛾最盛日は4月18日（過去9年平均4月20日、前年4月19日）であったと考えられる。
ほ場の成虫払い出し調査の結果、本年の越冬世代発蛾最盛期における成虫数は、8頭/180㎡（前年11頭/180㎡）であった。（第1図）。
 - (2) 4月9日に実施した現地ほ場における越冬後被害調査の結果、被害株率0%（平年2.3%、前年0.3%）、被害莖率0%（平年0.05%、前年0.01%）であった（第1表）。
 - (3) 越冬世代成虫の発蛾最盛期をもとに、久留米市の平均気温（平年値）を用いて有効積算温度を計算した結果、第一世代成虫の発蛾最盛期は6月9日（過去9年平均6月10日、前年6月12日）と予測される。
なお、福岡管区気象台の1か月予報（4月19日発表）によると、向こう1か月の気温は低いとされている。
- 7 防除上注意すべき事項
 - (1) 第一世代幼虫の防除適期は、越冬世代成虫の発蛾最盛日の約1週間後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので発蛾最盛日の2週間後も防除を行う。
本田での第一世代幼虫の防除が重要であるため、この2回の防除を徹底する。
 - (2) 第二世代幼虫の防除適期は、第一世代成虫の発蛾最盛日の約1週間前と発蛾最盛日頃である。第二世代幼虫は「長イ」を加害し、収量・品質に大きな影響を与えるため、この2回の防除を徹底する。

- (3) 地域や育苗方法等によるほ場間差が大きく、また本年は払い出し日によるばらつきが見られることから、ほ場での発生状況を観察して防除時期を判断する。
- (4) 防除薬剤は、「平成25年度病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。(ホームページアドレス http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/73/73366_16019881_misc.pdf)
- (5) 農薬散布の際は、使用基準を遵守し、薬剤のドリフト防止には細心の注意を払う。粒剤の使用に当たっては農薬のラベルに記載されている注意事項を確認するとともに、止水期間を1週間程度とし農薬の流出を防止する。



第1表 イグサシムシガ越冬後被害調査結果

調査日	調査地点名	50株当たり 茎数 (本)	50株当たり被害		被害 株率 (%)	被害 茎率 (%)	在虫 茎数 (本)	在虫 茎率 (%)
			株数 (株)	茎数 (本)				
4月9日	柳川市三橋町磯鳥	5,235	0	0	0	0	0	0
	大川市中木室	2,760	0	0	0	0	0	0
	大川市本木室	3,855	0	0	0	0	0	0
	本年				0	0	0	0
	前年				0.3	0.01	0	0
	平年				2.3	0.05	0	0